

平 成 30 年 6 月 22 日
予 報 部

広域の気象状況を一目で分かりやすく解説します

～危険度分布やバーチャートを用いた図形式の
全般気象情報及び地方気象情報の提供開始～

危険度の高まる場所や時間帯等に関する広い範囲の防災上重要なポイントを一目で把握できる図形式の全般気象情報及び地方気象情報の提供を開始します。

大雨や暴風などに関する気象情報には、その対象範囲に応じて、全般気象情報^{※1}、地方気象情報^{※2}、府県気象情報の3種類があります。これらの情報の形式には文章形式と図形式がありますが、これまで図形式は府県気象情報のみで用いてきました。

今後、これまで文章形式の情報のみであった全般気象情報や地方気象情報において、危険度の高まる場所や時間帯等に関する広い範囲の防災上重要なポイントを一目で把握できる図形式の情報の提供を開始します。

これからは、従来の文章形式の情報に加え、必要に応じて図形式の情報により、台風の接近時などに広い範囲の気象状況を危険度分布やバーチャート^{※3}等の図で分かりやすく示すことで、関係機関や住民等の速やかな対応を支援していきます。

図形式の全般気象情報及び地方気象情報は、従来の文章形式の情報と同じく、気象庁ホームページ^{※4}で提供いたします。具体的な発表イメージは別紙をご覧ください。

○ 提供開始日時

平成30年6月27日(水) 15時(予定)

※1 全国を対象に今後の気象の見通しや防災上の留意点を解説した情報。

※2 複数の都府県等をまとめた地域を対象に今後の気象の見通しや防災上の留意点を解説した情報。

※3 今後の気象の見通しを時系列の表形式で示したもの。

※4 気象庁ホームページにおける「気象情報」の掲載ページ

<https://www.jma.go.jp/jp/kishojoho/>

問合せ先：予報部予報課 佐藤・坪井

電話 03-3212-8341 (内線 3190・3131) FAX 03-3211-8303

新たに図形式地方気象情報を提供開始

別紙

これまで



広域で防災対応を行うブロック機関

平成28年 台風第10号に関する東北地方気象情報 第8号
平成28年8月30日16時25分 仙台管区気象台発表

【見出し】
大型で強い台風第10号は、まもなく東北太平洋側に上陸する見込みです。引き続き東北地方では大荒れとなり、31日にかけて、暴風、高波、高潮、土砂災害や低い土地の浸水、河川の増水やはん濫に留意してください。

【本文】
【気象状況】
10時にあっては9時の速報で北北西へ進んでいます。中心の気圧は965ヘクトパスカル、最大風速は35メートル、最大瞬間風速は50メートルで、中心の北東側200キロメートル以内と南西側100キロメートル以内では、風速35メートル以上の暴風となっています。東北地方は暴風域に入っており、太平洋側の海上では猛烈な勢いで進んでいます。

台風第10号は、まもなく東北太平洋側に上陸し、暴風域を伴ったまま東北地方を北西へ進み、30日夜速くは日本海へ進むでしょう。

31日06時までに予想される12時間雨量は、いずれも多い所で、太平洋側 150ミリ、日本海側 100ミリです。

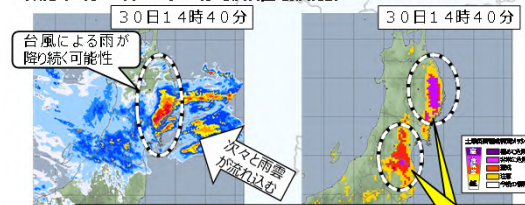
文章形式地方気象情報では、防災事項や予想雨量等が文章のみで記述されており、重要なポイントを把握しづらい。

今後



広域で防災対応を行うブロック機関

平成〇年 台風第10号に関する東北地方気象情報 第〇号
平成〇年8月30日14時55分 仙台管区気象台発表



命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない非常に危険な状況（薄い壁）の領域が、岩手・宮城・福島県を中心に急速に拡大。土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所に速やかに避難することが重要。

最新の土砂災害警戒判定マップ情報はこちら（<https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/>）を確認してください。引き続き気象台の発表する防災気象情報に留意してください。

平成30年
6月27日
提供開始

図形式地方気象情報の提供開始により、文章では表現しづらい、危険度の高まる場所や時間帯といった注目ポイントが可視化されることで読み解きが容易に。

広域で防災対応を行うブロック機関や大都市圏のキー局など広域の放送エリアを有する報道機関などが、管内における災害発生の危険度の高まる場所や時間帯といった注目ポイントが可視化されることで、地方気象情報の読み解きが容易になり、防災対応の支援につながります。

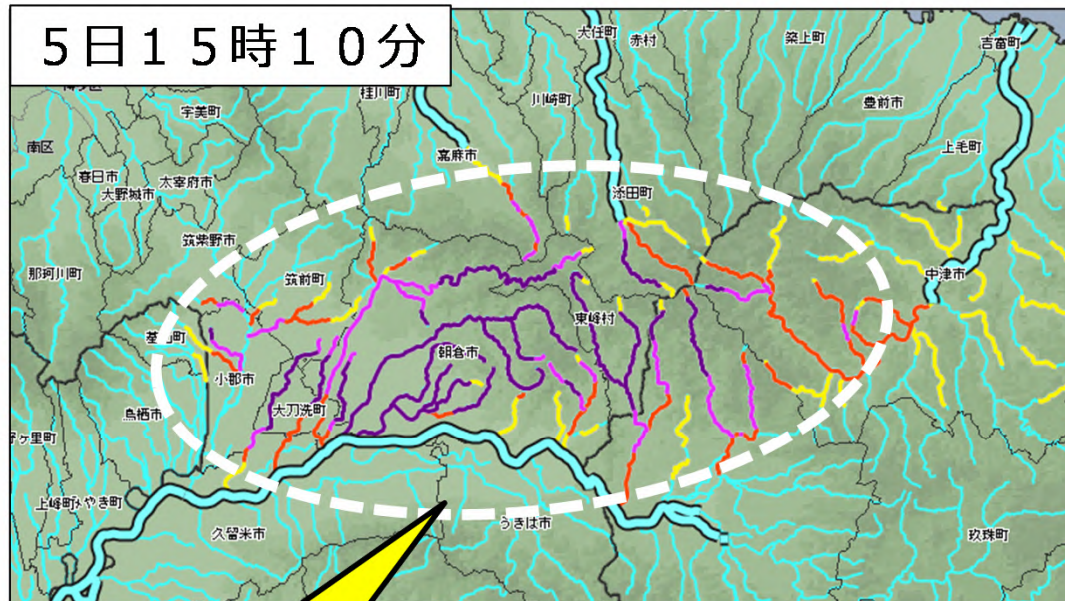
図形式地方気象情報のイメージ

大雨と突風に関する九州北部地方(山口県を含む)気象情報 第4号

平成○年7月5日15時30分 福岡管区気象台発表

福岡県・大分県の中小河川において、すでに過去の重大な洪水害発生時に匹敵する極めて危険な状況(濃い紫)となっている領域が急速に拡大しています。中小河川の急激な増水や氾濫に厳重に警戒してください。

5日15時10分



指定河川洪水予報

高	氾濫発生情報
危険度	氾濫危険情報(『避難勧告』相当)
低	氾濫警戒情報(『避難準備・高齢者等避難開始』相当)
	氾濫注意情報
	発表なし

洪水警報の危険度分布

高	極めて危険
危険度	非常に危険(『避難勧告』相当)
低	警戒(『水防団待機水位等を越えていれば』『避難準備・高齢者等避難開始』相当)
	注意
	今後の情報等に留意

「極めて危険」(濃い紫)の場所では、河川から氾濫した水で道路冠水等が発生し、すでに避難が困難となっているおそれがあります。このため、遅くとも「非常に危険」(薄い紫)が出現した時点で、水位計等で現況も確認の上で速やかに避難について判断することが重要です。また、上流の危険度の高まりは、その後、下流に移動してくる傾向があるため、下流においても、急激な増水を見越して速やかに安全を確保することが重要です。

気象庁ホームページで最新の洪水警報の危険度分布 (<https://www.jma.go.jp/jp/suigaimesh/flood.html>) を確認してください。次の「大雨と突風に関する九州北部地方(山口県を含む)気象情報」は、5日16時00分頃に発表する予定です。

図形式地方気象情報のイメージ

平成○年 台風第21号に関する近畿地方気象情報 第6号

平成○年10月22日06時00分 大阪管区気象台発表

台風第21号は、22日夜遅くから23日未明に近畿地方に最も接近する見込みです。近畿地方では暴風、高波、土砂災害、浸水害、河川の増水や氾濫に厳重に警戒してください。

		22日(日)						23日(月)	
		09時	12時	15時	18時	21時	24時	03時	06時
		朝	昼前	昼過ぎ	夕方	夜のはじめ頃	夜遅く	未明	明け方
台風最接近							←→		
大雨	北部								
	中部								
	南部								
洪水	北部								
	中部								
	南部								
暴風	北部								
	中部								
	南部								
波浪	北部								
	中部								
	南部								
高潮	北部								
	中部								
	南部								

警報級の時間帯 注意報級の時間帯

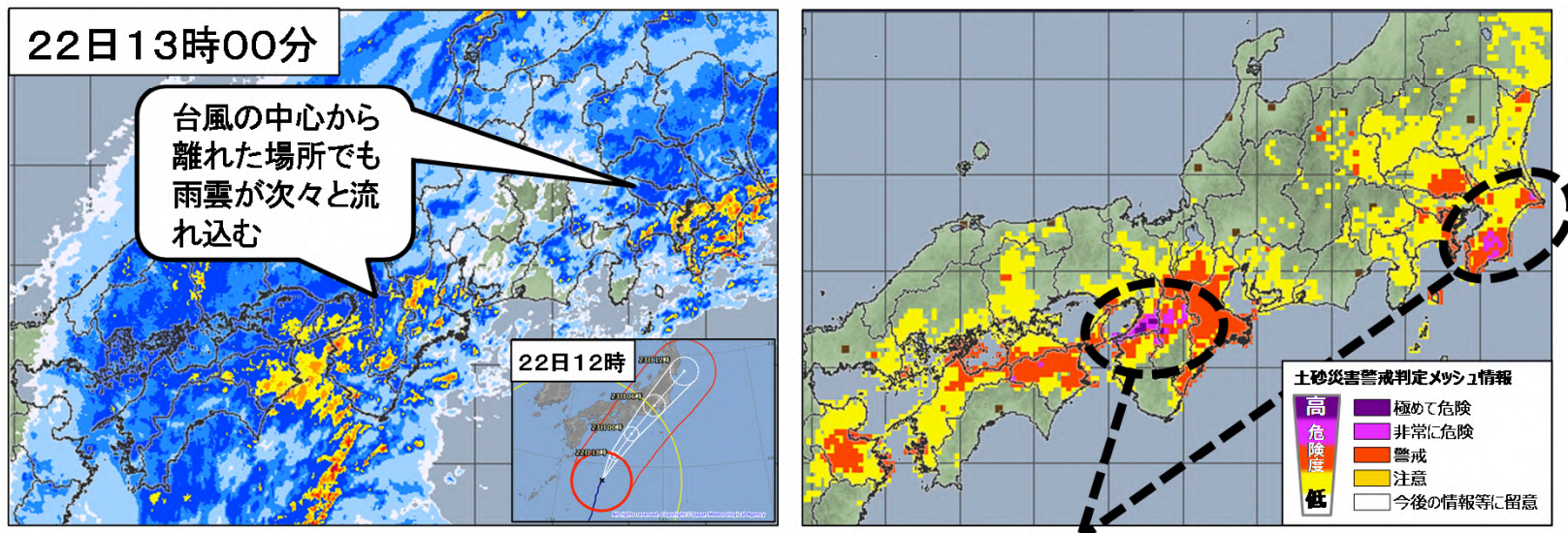
今後の予想を含めた最新の情報は各地の気象台が発表した気象情報をご利用ください。
次の「平成○年 台風第21号に関する近畿地方気象情報」は、22日16時30分頃に発表する予定です。

図形式全般気象情報のイメージ

平成〇年 台風第21号に関する情報 第52号

平成〇年10月22日13時30分 気象庁予報部発表

台風を中心からまだ離れていても、命に危険を及ぼす土砂災害がいつ発生してもおかしくない非常に危険な状況(薄い紫)の領域が、近畿地方や関東甲信地方を中心に広がり始めています。



土砂災害警戒判定メッシュ情報において、5段階のうちの最大の危険度「極めて危険」(濃い紫)が出現すると、過去の重大な土砂災害発生時に匹敵する水準で、土砂災害警戒区域等では命に危険が及ぶ土砂災害がすでに発生しているとおかしくない状況となりますので、それより前の遅くとも「非常に危険」(薄い紫)が出現した段階で、土砂災害警戒区域等の外の少しでも安全な場所に速やかに避難することが重要です。

気象庁ホームページで最新の土砂災害警戒判定メッシュ情報 (<https://www.jma.go.jp/jp/doshamesh/index.html>) を確認してください。引き続き気象台の発表する防災気象情報に留意してください。

次の「台風第21号に関する情報(総合情報)」は、22日17時頃に発表する予定です。